

令和3年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ①放課後児童健全育成事業の目的及び制度内容

- ◆ 女性の社会進出による共働き世帯、核家族の増加で、少子化が進んでいるにも関わらず利用児童数・児童クラブ数が増加していることを学び、全国的に児童クラブの重要性は高まっているのだと実感しました。働き続けたいという保護者のニーズに応えられるよう、子どもたちの遊び及び生活の場として安全に過ごせるよう、共通のカリキュラムを経て知識を身に付け、支援員としての役割を責任をもって努めていきたいと思えます。
- ◆ 少子化が進んでいるが、放課後児童クラブの需要は増えている。その背景には子育て環境の変化があり、保護者が安心感を持って子どもを預けることができるように放課後児童支援員という全国共通の資格を持つ人材の育成が必要で、放課後児童支援員に求められる役割も大きいと感じた。また、年齢の異なる子どもの集団の場となるため、それぞれの発達段階に応じた遊びの場を提供することが重要であるということも学んだ。
- ◆ 放課後児童クラブは児童福祉法に則って設置されており、その目的、役割、事業者について理解することができました。設置運営基準等はあらかじめ市の条例を確認したいと思いました。県内の状況については、クラブ数、登録児童数ともに年々増加で推移し、全国的にも需要が高まっているとのことで、クラブ数の増加に比例して待機児童が減少するとも限らず、運営には働く人の確保も課題となることがわかりました。
- ◆ 放課後児童クラブの必要性は、現代の核家族化が進む社会にとって、なくてはならないものだと感じた。就労する家庭が多い中、子どもが安全に、そして、社会的ルールやコミュニケーションが育つ場として提供することで、子どもの精神的安定だけでなく、保護者の安定にもつながっていくように思う。社会的認知度は低いようだが、資格を持った支援員が迎え、子どもたちの健全育成ができる場があるということをもっと世間に広まってほしいと思う。
- ◆ 放課後児童クラブの目的、役割、運営基準を理解し、支援員の必要性を感じました。質の改善に向けた努力も必要だと勉強させていただきました。児童の発達、成長と自立を促し、児童クラブでの児童の様子を家庭に伝え、日常的な情報交換を行いながら、保護者が安心して子育てと就労を両立できるように支え、児童が安心して利用できる居場所となるように意識しながら、支援員として向上していけたらと思いました。